

ULT通信

2018. 1. 16号 / vol. 75 発行 / ULT 図書館司書

さあ、2018年が始まりました。今年も面白い本、
ためになる本など、皆さんに読んでほしい本を
たくさん紹介していきますよ。何を讀もうか迷っ
たら、ULT通信を参考にしてください！

生誕、没後〇〇年の
作家を紹介！

2018年 節目の作家特集



生誕 90年
手塚治虫

1928.11.3-1989.2.9

主な作品『リボンの騎士』
『火の鳥』『ブラック・ジャック』他
多すぎて書ききれません。



没後 90年
太宰治

1909.6.19-1948.6.13

主な作品『人間失格』
『走れメロス』『斜陽』他



生誕 190年
レフ・トルストイ

1828.9.9-1910.11.20

主な作品『戦争と平和』
『アンナ・カレーニナ』他



生誕 100年

いわさきちひろ

1918.12.15-1974.8.8

『窓ぎわのトットちゃん』
(黒柳徹子著)の表紙・
挿絵などでおなじみ。



生誕 140年

与謝野晶子

1878.12.7-1942.5.29

主な作品『みだれ髪』他



生誕 120年

井伏鱒二

1898.2.15-1993.7.10

主な作品『黒い雨』
『山椒魚』他



生誕 90年

ガブリエル・ガルシア＝マルケス

1928.3.6-2014.4.17

主な作品『百年の孤独』他



没後 10年

赤塚不二夫

1935.9.14-2008.8.2

主な作品『おそ松くん』
『天才バカボン』他



没後 50年

村岡花子

1893.6.21-1968.10.25

『赤毛のアン』など
児童文学の翻訳者。

今回紹介した作家の作品は他にもULTにあります。
時代を超えて読み継がれる作品をこの機会にぜひ！

ULT NEWS

●浦学美術大賞展@ULT！

1月29日(月)～ULTにて、アートコースの作品展が開催されます。

12月にさいたま市文化センターで展示した作品のうち、厳選された作品を

見ることができます。浦学の芸術家たちの力作をぜひ見に来てください！



新着案内

11・12月の新着は124点です。一部抜粋で紹介します。

↓生徒と先生からのリクエストもたくさんありました！



タイトル	著者	出版者
ノーウェアマン (星海社FICTIONS)	朝倉ユキト	星海社
路地裏のほたる食堂 (講談社タイガ)	大沼紀子	講談社
ゲバラ漂流 (ポーラスター)	海堂尊	文藝春秋
球道恋々	木内昇	新潮社
米澤穂信と古典部	米澤穂信	KADOKAWA

↓コミック新刊！『はたらく細胞』は埼玉県の高校図書館司書のイナオシ本に選ばれました。

タイトル	著者	出版者
はたらく細胞 (シリウスKC) ①～③	清水茜	講談社
3月のライオン (YA COMICS) 13	羽海野チカ	白泉社
コウノドリ (モーニングKC) 19	鈴木木ユウ	講談社



↓DVD も入りました！ULTでも無事ハリー・ポッター完結！



タイトル	著者	出版者
アスラン王と魔法の島 (ナルニア国物語 第3章)	マイケル・アプテッド	フエナピスタホームエンターテインメント
ハリーポッターと謎のプリンス	デイビット・イェーツ	ワーナー・ホーム・ビデオ
ハリーポッターと不死鳥の騎士団	デイビット・イェーツ	ワーナー・ホーム・ビデオ
ハリーポッターと死の秘宝 ①②	デイビット・イェーツ	ワーナー・ホーム・ビデオ
この世界の片隅に	片淵須直	バンダイビジュアル株式会社

コラムde!!



第75回は笹木が担当です。お題は「この本読まなきゃよかった！」。マイケル・ドリス著『朝の少女』を紹介します。

この本は学生のころ、大学の図書館でたまたま手に取りました。勉強の合間にあまり難しくないものを読みたいと思い、易しい語り口の児童文学の本だったので選びました。南の島の少女のお話で、豊かな自然を愛し、生き生きと輝くように暮らす姿が描かれています。感性豊かな少女の様子や愛情深い家族の関係、美しい情景描写に満足して読み進めるうちに、最後のエピローグに衝撃の展開が待ち受けていました！ネタバレになるので内容は書けないのですが、重くない本を読みたいと考えていた自分にとって、まさに「読まなきゃよかった！」としか言えないものでした。

ただし、最初に持ったイメージと読後感があまりにかけ離れていたからそう感じたのであって、それほどの衝撃を与えることのできる本であるという点では、とても優れた作品だと思います。ラストたった2ページで、こんなにも作品全体の印象をひっくり返す作品は覚えがなく、10年以上たった今でもそのときの驚きが鮮やかに残っています。

こういう本は人にも勧めて感想を言い合いたいけれど、「ラストすごいよ」と知ってしまった以上、私が味わった衝撃よりは薄くなってしまふのがもったいないですね。お気の毒、とさえ思う(笑)。ほんとうは、「悪いこと言わないから何も言わずにこれを読もう」と差し出したい。司書はいつも、紹介したい、でもネタバレしたくない、というジレンマと戦っています。

高橋さんにもジレンマを味わっていただくべく、次回のテーマは「ラストの衝撃！」にします。最後のどんでん返しや謎解きなどは、1ページずつコツコツ読むからこそ楽しめる、読書の醍醐味だと思うのです。